

いぐさ本田の後期発生イネ科雑草の防除法

県農業試験場八代支場 い業部(現、農研センターい業研究所)

研究のねらい

いぐさ栽培では、先刈時期前後から発生するノビエ等が収穫時に刈り取り・すぐり作業の能率低下を招き、品質面でも問題となっている。そのため、クサガード水溶剤を4月上旬から5月上旬に散布し防除するが、クサガード水溶剤は、「長い」発生期に散布すると生育を抑制する場合があるため、収穫60～65日前までに使用時期が限定される。

これ以降の雑草防除は手取りに頼らざるを得ないために更に安全な除草剤を選定し実用化を図る。

研究の成果

1. ナブ乳剤(15～20ml/a)及びワンサイド乳剤(10～20ml/a)をイネ科雑草に落水状態で茎葉散布すると2～3時間で吸収され、2週間前後で枯れる。
2. 生育がやや進んだ2～5葉期の雑草まで有効であるため、雑草が生え揃った後に散布できるが、6葉期以降は効果が劣るので、雑草の大きさに十分注意し、散布時期が遅れないようにする。
3. イネ科雑草でもスズメノカタビラには効果がなく、イネ科以外の雑草についても全く除草効果はみられないため、イネ科以外の雑草を現在の除草体系で防除した後で主にイネ科雑草が発生した場合に限り散布する。
4. いぐさに対する薬害等については、およそ収穫30日前までの使用においては生育抑制は観察されず、「長い」発生期に使用するときも安全で散布時期の制限も必要ないため、いつでも防除ができる。
5. 収穫時に作業の邪魔になり、いぐさを傷めるノビエ等イネ科雑草の先刈前後以降の後期発生を防止できる。

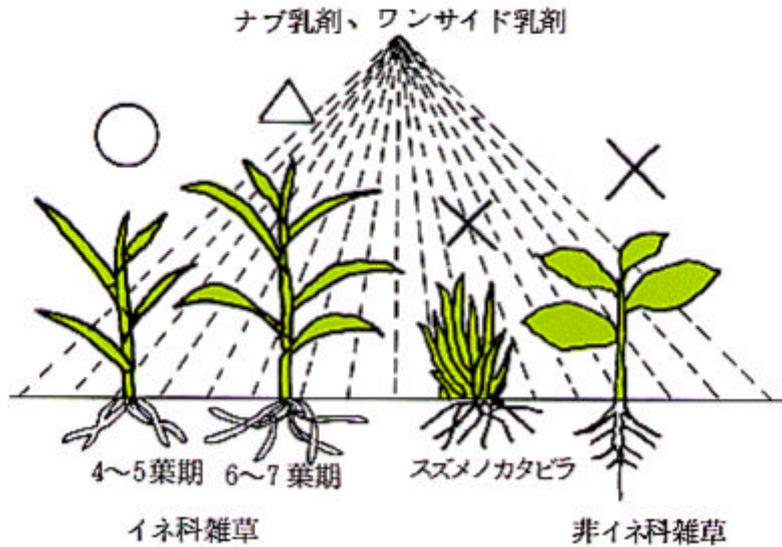


図1 雑草の種類と散布適期

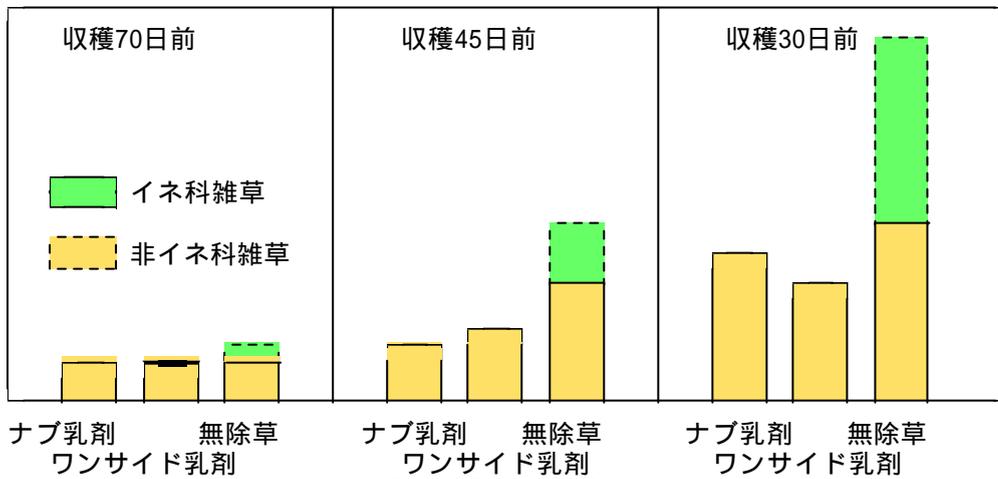


図2 散布時期と除草効果

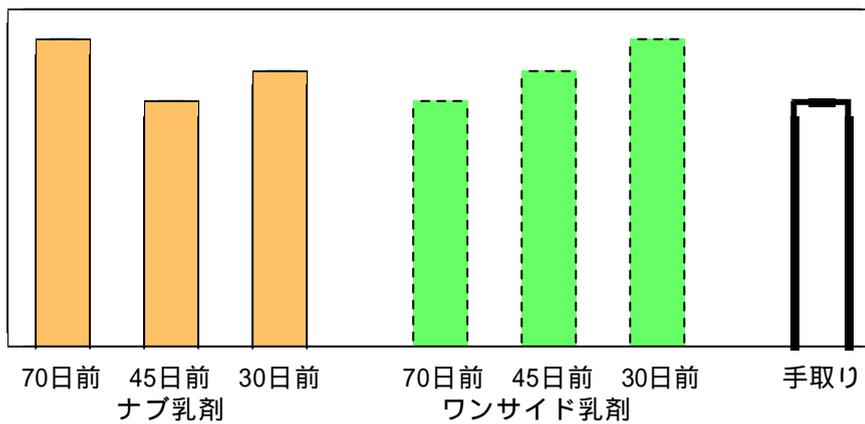


図3 散布時期と収量(長い重: 105cm以上)

表1 ナブ乳剤・ワンサイド乳剤の農林登録内容

薬剤名	作物名・適用場所	滴雑草名	使用時期	使用量	散布液量	使用方法	適用場所
ナブ乳剤	いぐさ	水田1年生イネ科雑草 スズメノカタビラは除く	雑草生育期イネ科雑草3~5葉期	ml / 10a 150~200	ℓ / 10a 100~150	雑草	全地域
ワンサイド乳剤				100~200	100~150	散布	